

岐阜県

【設問 1】

貴道府県における医師不足に関する課題、及びその課題に対する県としての取組みについてご記載ください。

○医師不足に関する課題とその課題に対する岐阜県及び岐阜大学の取組み

課 題

① 全県勤務医数の慢性的不足

（H8・14 年度：全国 44 位、H16：43 位、H18：40 位、H20：41 位、H22：38 位）

② 県内圏域間の勤務医数の格差・偏在

（H22：全国 219.0、岐阜：243.9、西濃：150.1、中濃：138.3、東濃：169.2、飛騨：169.5）

③ 救急医療、周産期～小児医療に従事する医師の偏在（県南地域へ 90%以上が集中）

取組み

（1）岐阜大学医学部に地域医療医学センターを開設

H19 年 4 月に岐阜大学医学部に地域医療医学センター（Center for Regional Medicine:CRM）が自主的に開設され、医師不足及び偏在に対応する組織として取組みが始まった。

（2）岐阜県寄附講座を開設

H19 年 10 月から H24 年 3 月まで、岐阜県は CRM 内に岐阜県寄附講座（地域医療学講座）を開設した。（3 名の専任教育職員が配置された。）

（3）岐阜県医学生修学資金貸付制度を創設

H20 年 4 月に岐阜県は、将来県内の医療機関に従事することにより地域医療に貢献する意思のある者を確保するため、修学資金貸付制度を創設した。

①第 1 種修学資金（岐阜大学医学部医学科地域枠入学者が対象）

「地域枠推薦入試」では第 1 種修学資金（月額 100,000 円＋授業料及び入学金相当額）を 6 年間受給することを、合格の条件としている。また、その返還免除条件として、岐阜県内の臨床研修病院での初期臨床研修 2 年間と、その後 9 年間の岐阜県内の医療機関での勤務を定めている。9 年間のうち 6 年間は知事が指定する医療機関＝県内で研修医教育が可能な施設での勤務を規定している。H20 年度～H24 年度の 5 年間で 100 名が受給している。

②第 2 種修学資金

第 1 種修学資金のほかに、第 2 種修学資金（月額 100,000 円）を設けている。返還免除条件として、岐阜県内の臨床研修病院での初期臨床研修 2 年間と、その後修学資金受給期間と同期間（受給期間が 2 年未満の場合は 2 年間）の岐阜県内の医療機関での勤務を

定めている。そのうち2分の1に相当する期間は、知事が指定する医療機関＝県内で研修医教育が可能な施設での勤務を規定している。

(4) 岐阜大学医学部医学科で地域枠推薦入試を開始

H20 年度から岐阜大学医学部医学科入学試験に「地域枠推薦入試」の枠を設け、H20 年度：10 名、H21 年度：15 名、H22 年度以降 25 名の純増員を実現し、また H22 年度からは地域枠以外で、地域定着枠としての入学生 2 名をさらに増員し、入学定員はそれまでの 80 名から H22 年度以降一気に 127 名に増えた。なお、「地域枠推薦入試」は募集定員の 2 倍以上の応募が継続している。

(5) 岐阜県医師育成・確保コンソーシアムを結成

H22 年 9 月、岐阜大学医学部、同附属病院と研修医等が多く集まる病院（全 9 病院）が、効果的な初期臨床研修の実施と後期研修医等の育成のためにコンソーシアムを立ち上げ、県内の臨床研修医の増加と医師不足地域への医師の派遣により、岐阜県の地域医療の確保に資することを目的としている。このコンソーシアムでキャリア管理する医師は、主に第 1 種修学資金又は第 2 種修学資金受給後の医師である。

なお、岐阜県では本コンソーシアムを「地域医療支援センター事業」と位置付け、コンソーシアムの予算措置と組織づくりなど、事業の強化を図っている。

(6) その他

①医師確保広報事業

県外の医師に岐阜県での診療に興味を持ってもらい県内就業につなげるため、民間の医師確保専門サイトへ情報を掲載

②女性医師就業支援等の環境整備

イ) 病院内保育所の運営整備支援

病院内保育所の運営支援を拡充するとともに施設設備整備に助成

ロ) 女性医師就労支援

女性医師が働きやすい勤務環境づくりを進めるため、女性医師の相談窓口の設置や女性医師の就労環境整備等に関する講演会等を開催

ハ) 女性医師等就労環境改善事業費補助金

仕事と家庭の両立のできる働きやすい職場環境の整備について取組みを行う病院への支援を実施

【設問 2】

設問 1 で記載された取組みについて、地域医療支援センターが関与し、これまで取り組んできた事業内容をご記載ください。(ポンチ絵等、参考資料を添付願います。)

※ 24 年度から実施の 5 県においては、独自に取り組まれた内容があれば記載願います。

★別添パワーポイント資料を参照

＜H23 年度実績＞

(1) 初期臨床研修医育成支援事業

①H23 年度初期臨床研修プログラムの実行支援

CRM 地域医療研修コーディネート(H23 年度：39 名、H19 年度からの累計

②H24 年度以降の初期臨床研修プログラムの作成支援準備

③H26 年度以降の地域枠医師等に対する初期臨床研修プログラム作成準備

④初期臨床研修医セミナー充実への取り組み

コンソーシアム各構成病院主催セミナー：29 回

構成病院合同主催セミナー：1 回

(2) 後期研修医キャリアアップ事業

①キャリアパスの策定

第 2 種修学資金受給後研修医指定勤務管理

H24 年 4 月 1 日現在：初期臨床研修 1 年目：12 名、2 年目：7 名、

指定勤務 1 年目：10 名、2 年目：3 名 合計 32 名

②指導医の派遣：実績なし

③初期臨床研修修了後の若手医師等に対する研修事業の具体化：研修費用支援など

(3) その他の事業

①臨床研修指導医養成のための講習会の開催

◇H23 年度第 1 回臨床研修指導医養成講習会

6/18 (土)～19 (日) 於：岐阜大学医学部

参加者：15 病院、42 名

◇H23 年度第 2 回臨床研修指導医養成講習会

12/17 (土)～18 (日) 於：岐阜大学医学部

参加者：15 病院、40 名

いずれも、岐阜大学医学部医学教育開発研究センター (MEDC) および岐阜大学医学部附属病院卒後臨床研修センターとの共催・全面協力で実施、構成病院からファシリテーター派遣

【設問 3】

設問 2 で記載された事業における実績について、できる限り定量的にご記載ください。(あっせん等を行った医師数、作成したキャリアプログラムの数や内容など)

(設問 2 を参照)

【設問 4】

貴道府県の地域医療支援センターにおける、現時点での問題点(課題)があれば、ご記載ください。

- ・岐阜県医師育成・確保コンソーシアム構成病院以外の、とくに医師不足圏域の病院における、コンソーシアムの意義や取組みに対する理解がまだ不十分であるため、これを解消するための説明に時間と労力をかけなければならない。
- ・今後、修学資金を受給している卒業生が多数排出される。それぞれの希望するキャリアパスを、修学資金指定勤務の内規に従い、しかも安心して教育を受けられる実感を得てもらいながら、結果的に医師確保につなげるこのシステムを、ルールに従って整然と実施するためには、かなりのエネルギーが必要である。
- ・岐阜県医学生修学資金を受給しながら、卒前、卒業時、また卒後に返還してしまう学生が散見される。今のところ地域卒卒業生は出ておらず、また在学生にも Drop Out はいないが、第 2 種で散見される現状にある。コンソーシアム事務局ないし CRM と、これら学生との卒前のコミュニケーションを風通し良く継続することが課題である。

【設問 5】

今年度以降、地域医療支援センターにおいて、どのような事業を実施される予定かご記載ください。

- ・H24 年度以降も、これまでの事業を継続するとともに、そのアウトカム調査を行う。すなわち、修学資金制度とコンソーシアムのアウトカム評価研究として、岐阜大学医学部医科学学生の卒後勤務に対する意識調査、卒業生の動向や岐阜県内勤務定着率などのデータから、現行制度のアウトカム評価を実施するとともに、今後の制度・体制の見直しのための基礎データとする。
- ・H23 年度までに実現できなかった、指導医と研修医のセット派遣による医師不足病院の支援、研修医の研修を充実させるための資金援助システムの確立、コンソーシアム構成病院間での初期臨床研修及びその後の研修プログラムの相互乗り入れの促進などについて、徐々に取り組みたい。
- ・地域医療実態調査研究として、各圏域における医療の実態調査に基づき、中長期的な医療ニーズを予測し、適正な医師配置につなげるような基礎データとしたい。